

「一村一農場」構想、つなぐ集落！つなげる未来！！

のうじくみあいほうじん ふぁーむやおとめ 農事組合法人 ファーム八乙女

※2025年現在



八乙女山から滴るミネラル豊富な水を使って栽培している八乙女米（コシヒカリ）

■組織情報

所在地	南砺市南山見地区
設立年次	2005年2月
代表者	代表理事組合長 澤田 秀継
構成員	6集落 156人（出資組合員）
社員等	理事10人（うち常勤2人）、監事2人、職員7人、パート3人

組織の概要

当該組織が所在する南山見地区は、散居で名高い砺波平野の最南部、標高751mの八乙女山のふもとに広がる穀倉地帯で、平坦地から勾配1/10以上の水田が広がる中山間農業地域である。

当地域では、将来的な担い手不足や生産資材・農業機械の価格上昇が農業経営に影響を及ぼすことを懸念し、集落単位を超えた「一村一農場構想」を策定、平成17年に賛同した5集落で法人を設立（現在は6集落）し、水稻を中心に野菜、農産物加工品の生産・販売を行っている。

生産状況

●経営耕地面積	155ha
●水稻	106ha
●大麦	32ha
●大豆	23ha
●野菜	6.3ha
●農産物加工（米菓子、生もち、切餅、赤飯等）	

主な設備

●トラクター	8台
●田植機	3台（直進アシスト付1台）
●麦・大豆播種機	3台
●コンバイン	7台（大豆用 3台）

特徴的な取組及び成果

- 南山見地区では将来的な担い手不足が深刻化するなか、米政策改革大綱（平成14年12月）の決定を受けて、営農体制の再編の機運が高まり、JAと集落代表が中心となって、平成16年に「一村一農場基本構想（案）」を策定した。
- 当時は集落ごとに営農組合が分かれており営農方針も異なったため、集落横断の組織づくりに調整が必要だったが、県やJAの支援を得ながら意向調査や話し合いを重ね、**専従者の発掘、中核農家との意見調整**を経て、平成17年に5集落が参加して**法人を設立**した。
- 法人設立後はスケールメリットを活かし、オペレーター不足の解消や機械過剰**投資の抑制**を進め、さらに1集落を加えて組織を拡大。現在は、地区農地の約6割で水稻を中心とした高品質農産物を**一元管理**で安定的に生産している。
- **地区外からの雇用確保や冬期の労力活用**のため、たまねぎ、にんじん、ミニトマトなどの生産と直売、赤飯・おにぎり・もちなどの加工品製造・販売にも取り組み、**農業経営全体の収益性が向上し、地域の活力維持にも寄与**している。

今後の目標

- 水稻育苗についてはこれまで別の任意組織へ委託してきたが、委託先においても労力・人材不足が深刻化していることから、令和8年産からは当組織から人材を派遣し、**将来的には育苗施設の移管を受けて育苗業務を当組織で担う**ことを目指し、新たに大型パイプハウスを整備するなど準備を進めている。
- 当組織は「一村一農場」の基本構想のもと、南山見地区全体の営農を担うことを目的に設立された組織である。そのため、地域内の個人経営体や集落営農組織から加入要望があれば、今後も**積極的に受け入れていく**方針である。